

令和6年度第1回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

令和6年8月6日（火） 14時00分～16時10分

2 開催場所

千葉市役所 7階 会議室

3 出席者

（委員）神野委員、椎原委員、関委員、瀬崎委員、高梨委員、柳澤委員、湯本委員

（事務局）堺生活文化スポーツ部長、吉野文化振興課長、川口文化振興課長補佐、事務局職員

4 議題・報告

- （1）（議題1）委員長・副委員長の選任
- （2）（報告）ア 第2次・第3次千葉市文化芸術振興計画年次報告書
（令和5年度実施状況、令和6年度実施予定）
イ 千葉市芸術文化振興事業補助金（令和5年度実施報告）
- （3）（議題2）千葉市文化芸術振興会議 令和6年度年間スケジュール
- （4）（議題3）第3次千葉市文化芸術振興計画の評価手法

5 議事の概要

- （1）（議題1）委員長・副委員長の選任
委員の互選により、委員長は神野委員に、副委員長は種谷委員に決定した。
- （2）（報告）
ア 第2次・第3次千葉市文化芸術振興計画年次報告書（令和5年度実施状況、令和6年度実施予定）
第2次・第3次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について、事務局から報告の上で、意見交換を行った。
第2次・第3次千葉市文化芸術振興計画年次報告書の報告内容について了解した。
イ 千葉市芸術文化振興事業補助金（令和5年度実施報告）
千葉市芸術文化振興事業補助金の、令和5年度採択事業の実施報告について、事務局から報告の上で、意見交換を行った。
千葉市芸術文化振興事業補助金（令和5年度実施報告）の報告内容について了解した。
- （3）（議題2）千葉市文化芸術振興会議 令和6年度年間スケジュール
千葉市文化芸術振興会議の令和6年度年間スケジュールについて、事務局から説明の上で意見交換を行った。
千葉市文化芸術振興会議の令和6年度スケジュールについて概ね了承した。
千葉市芸術文化振興事業補助金について、改善に係る案を文化芸術振興会議の中で、あるいは書面協議等で示すこととなった。

(4) (議題3) 第3次千葉市文化芸術振興計画の評価手法

第3次千葉市文化芸術振興計画の評価手法について、事務局から説明の上で、意見交換を行った。

第3次千葉市文化芸術振興計画の評価手法の叩き台について了承した。

第3次千葉市文化芸術振興計画の評価手法は継続審議として、次回、素案を示すこととなった。

6 会議経過

(1) (議題1) 委員長・副委員長の選任について

《千葉市文化芸術振興会議設置条例第4条第2項に基づき、委員の互選により、委員長に神野委員、副委員長に種谷委員を選任することに決定した。》

(2) (報告)

ア 第2次・第3次千葉市文化芸術振興計画 年次報告書 (令和5年度実施状況、令和6年度実施予定)

《第2次・第3次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について、事務局から、資料1-1から資料1-3を用いて説明を行った。》

《以下、意見交換》

神野委員長

年次報告書は、市の文化施策について、関連事業がどのように行われたか確認いただく内容になっています。達成度A・B・Cの評価については、各所管課がつけた自己評価です。文化振興課が直接所管していない文化芸術関連事業も含まれていることは、ご承知おきください。年次報告書について、質問があればお願いします。

柳澤委員

私は画家をやっていて、美術協会の会員でもあります。資料1-3の令和6年度実施予定を見ると、絵画・美術に関する関連事業が少ないと感じました。千葉市民ギャラリー・いなげも利用してもっと色々な事業を展開していただくと、ビジュアルアートに関わる人間としては嬉しいと思いました。

神野委員長

全体として見たときに、絵画・美術に関する部分が弱いという印象を受けたということだと思います。

『達成度なし』について、悪天候などで開催できなかったという理由は理解できます。資料1-2『No. 25千葉湊大漁まつり』、『No. 26幕張ビーチ花火フェスタ』は実施されているが、『達成度なし』になっている理由は为什么呢。

吉野文化振興課長

資料1-2『No. 25千葉湊大漁まつり』、『No. 26幕張ビーチ花火フェスタ』は数値目標が設定されていなかったため、達成度をつけられなかったという整理をしています。

神野委員長

これまでも課題でしたが、文化振興課が直接関わらない事業をどのように評価していくかは今後も課題です。各事業実施者が評価を共通理解していく必要があります。

資料1-2 『No. 70千葉市民会館の再整備』について、議論がうまくまとまらないということで聞いてはいますが、文化芸術振興会議にも関係することなので、どういう状況か説明いただきたいと思えます。

吉野文化振興課長

千葉市民会館の経緯について説明します。これまで発表されている内容ですが、JR千葉支社の跡地が千葉駅前であり、今は建物がなくなり更地となっていて、そちらの整備を基本として千葉市とJRで協定を結んで協議を進めています。

昨今の建設費、人件費の高騰もあり、当初見込んでいた単価でできなくなりそう、という話がありましたが、JRとの協議の中で、色々なやり方についてご提案をいただき、それを基にどういう形でできるか検討することになったのが昨年です。

検討にあたっては、JR千葉支社跡地を使用した場合と、市有地を使用した場合の、費用面も含めた比較検討を進めているところです。

まだ時間がかかっており、現段階では具体的にはお示しができないところですが、皆様の大変な関心事でもお思いますので、千葉市としては引き続き、検討を進めて、早期に方向性を出していきたい、という状況です。

神野委員長

物価高騰等により前提が変わったことで、JRとの協定に基づく進め方を模索することが難しくなった中、再度、検証を進めているということです。

椎原委員

事業所管課からの評価をまとめていて、それが適正かどうかの再評価は基本的にしないということなので、自己評価で達成度Aでも評価が甘いということもあると思えます。

例えば、資料1-2 『No. 4舞台芸術鑑賞事業』の目標の入場者数1,000人はよくわからない指標です。目標が1,000人で、それに対して実績2,218人だったから達成度A、と定量的にやっているとしたら、今どきなんでこんな評価しているんだろうというのが正直なところです。例えば、市民に対してワークショップをやっていることを評価に含めるということもあるかと思えますし、フォーシーズン公演も評価に反映されているのかもわかりません。

すべての企画に対して評価するのは不可能ですが、千葉市民会館での事業も色々なことをやっているのだから、稼働率などを含めて報告があっても良いのではないかと思います。逆に言うと、指定管理者として、1公演しかやっていないのか、と勝手に思っています。政令指定都市の市民会館の指定管理者が、年間で1本しか公演をしていない、となると劇場ホールからしてもおかしい話になってきます。

たまたま出てきた事業を見て、それで評価することの限界なのかもしれませんが、すごく違和感を覚えます。毎年、同じようなことを言っている気もしますが、美術館も同じようなことがあります。年次報告書を出すのが大変ということもわかりますが、ホールや美術館など、街の顔である文化施設に対しての評価方法としては違う気がします。

それと文化芸術基本法の改正により、経済や観光のことが組み込まれているということでしょうか。

神野委員長

博物館法も、文化芸術基本法も状況が大きく変わるタイミングで、第3次文化芸術振興計画では、改正の内容がより明確に求められているということになるかと思えます。

前提として、年次報告書は各所管課の自己評価としてまとめられています。マンパワーを含め

て限界があるため、そういうことしかできていないというのが現実的なところですが、所管課の意識として、手前味噌な評価もあれば、すごく厳しい評価もあり、ばらつきがあるのも事実です。

この後の議題3『第3次文化芸術振興計画の評価手法』にも関わることかと思しますので、課題として共有して進みたいと思います。

椎原委員

さきほど、私が言った意見については、資料1-2『No.64文化施設の効果的な運営』に書いてありました。基本施策1文化芸術に親しむ市民の裾野を「広げる」には、市民会館のコンサートなどの事業が掲載されていて、基本施策3文化芸術を育む場を「支える」には、総括的に書かれていることがわかりました。

文化振興財団がやっている事業は、細かいところよりも、むしろ事業体全体として評価しているということでしょうか。

神野委員長

文化振興財団そのものを総括的に見る側面もあれば、事業を見る側面もあります。施策との関係の中で、書き方が変わってくるということだと思います。

堺生活文化スポーツ部長

ご意見ありがとうございます。

第2次文化芸術振興計画に基づく実施状況、自己評価ですので、ご指摘をいただいた資料1-2『No.4舞台芸術鑑賞事業』も、そもそも入場者数の目標設定がこの人数で良いのか、という点もありますし、入場者数だけで評価して良いのか、という点もあります。そういう点も含めて、この後の議題3『第3次文化芸術振興計画の評価手法』にあたって、指標の設定を含めて、事務局の案をご説明して、意見を頂戴できればと思います。

神野委員長

計画の移り変わりのタイミングなので、第2次文化芸術振興計画と第3次文化芸術振興計画の間で、どこで何を評価するか、という変化が起きているということかと思えます。評価に関しては、この後にも議論ができればと思います。

年次報告書には、芸術祭も記載されていますが、芸術祭の実施は何年度でしょうか。

吉野文化芸術振興課長

千葉国際芸術祭について、資料1-3『No.66千葉国際芸術祭』に記載をしました。千葉国際芸術祭はトリエンナーレ方式ですので、3年に1回本会期があり、3年スパンでやっていきます。令和5年度、令和6年度はプレ期間、令和7年度が本会期で、その3年間でトリエンナーレと整理しています。

年次報告書に千葉国際芸術祭として名称が掲載されるのは令和6年度からになりますが、令和5年度の年次報告書にも、資料1-2『No.92千の葉の芸術祭』として掲載しています。これは、千葉国際芸術祭の最初のプレ期間です。

事業名が異なるのは、千の葉の芸術祭から、千葉国際芸術祭に名称が変わったため、事業名も変わったとご理解いただければと思います。内容としては、資料1-2『No.92千の葉の芸術祭』と、資料1-3『No.66千葉国際芸術祭』は、同じ事業です。

神野委員長

令和5年度の芸術祭の事業費は2,845万円もかかっていますが、内容からすると、なんでこんなにかかるといえるのかな、というのが素朴な疑問です。令和6年度は事業費として、1億1,100万円があげられています。千の葉の芸術祭の総事業費以上の金額ですので、千葉市としては、相当の覚悟をもってやっていくのかと思いますが、そこについても、情報が漏れ聞こえてこないということもあります。また、『なぜ千葉市に芸術祭が必要なのか?』というイベントもあったと思いますが、私にその情報がきたのは直前で、イベントには行きませんでした。これだけ金額をかけていて、文化芸術振興会議委員が知らないのは、千の葉の芸術祭をやった私からしても違和感があります。

塚生活文化スポーツ部長

ご指摘ありがとうございます。

千葉国際芸術祭について、段階的にプロジェクトを拡げていきながら、来年度の本会期につなげていく方法をとっています。今年度は、プレ期間の2年目になりますが、その内容を具体的に明らかにするのが、令和6年10月頃を想定しています。文化芸術振興会議でも、できるだけ前広にご案内をしていきたいと思っています。

また、本日の議題に絡めますと、芸術祭の評価というものも、芸術祭がプレ期間、プレ期間、本会期という3年1クールになりますので、単年度の見方と、どのように3年目の本会期に結実していくかという、両面があるかと思っています。そのあたりもご相談しながら、文化芸術振興会議の評価に組み込んでいきたいと考えているところです。情報共有については、留意して進めていきます。

神野委員長

できれば、大枠の方針が決まって動き出す前に、意見が言えれば良いと思います。しっかり評価をするのは当然ですが、事前にわかっていたら指摘できた、ということもあるかと思うので、よろしくお願いします。

高梨委員

プレ期間の決算額は、総合ディレクターにウエイトがあるのかと思いますが、動きがよく見えません。段階的という話もありましたが、具体的に今の段階で私たちに教えていただけるのであれば情報共有していただきたいです。何かよく見えません。もうプレ期間も始まっているので、その時点で何もわからないというのはちょっとどうなのかなと思います。前年度にもそのあたりはお願いしたと思います。新聞によって内容がわかり、その後は何もないです。人事異動もあったかもしれませんが、そこは引き継ぎできちっとやっていただき、情報を教えていただきたいです。

神野委員長

高梨委員からもありましたとおり、総合ディレクターの選任、実行委員会の立ち上げについて知りませんでした。関委員から、新聞、ネットニュースで知ったという話があり、「知っていますか」と聞かれましたが、私は知りませんでした。文化芸術振興会議では一切その話がなかったということがあります。

そういった見えない状況の中で2,000万円以上の金額がかかり、令和5年度実施実績は総合ディレクターの選任としか書いていなくて、あとは事業らしい事業をしたのかと言えば、この内容であれば桁が一つ違うのではないかと思います。

ここで意見を求められているわけではないかもしれないけれど、実際は重要なことで、高梨委

員が仰ったような点を放置して、最後に評価だけするという事はないだろうと思います。文化芸術振興会議の中で、委員の立場で意見を言うということがちゃんとなされないと、最後の評価だけやってくださいと言われても、責任を負えないということもあろうかと思いますが。

堺生活文化スポーツ部長

千葉国際芸術祭は文化芸術振興計画上では、1つの事業の位置づけでありながら、ご指摘のとおり、投入する予算額も、千葉市としての気合いの入れ方も含めて大きな事業です。

文化芸術振興会議、芸術祭実行委員会が共に千葉市を良くしていくための会議体ですので、そこでの情報共有をどういう仕組みでうまくやっていけるか、改めて宿題とさせていただきたいと思います。ご意見は十分に理解しましたので、改めて、またご相談をしたいと思います。よろしくをお願いします。

椎原委員

千葉市ホームページを見ますと、既にイベントをやったということで、「わたしの千葉市！テーマパークの模型を作ろう！」、「かえっこin花見川団地」、「くふうくワークショップ」、「Slow Art Collective Chiba」などの情報が出ています。オーストラリアからのアーティストを呼んでのアートプロジェクトは、何をしたかわかりませんが、それなりのお金もかかるのかと思います。

色々な芸術祭を見てきた立場からすると、いわゆるデジャブで、これまで色々なところでやられたことを千葉市にトランスフォームしているだけです。

中村政人さんが3331、東京ビエンナーレでお客さんを集めて都市型アートをやっていますが、東京ビエンナーレも本当に成功したかどうかということもあります。すごく大きな予算で動いているのは確かで、千代田区とのつながりもあり、市民サポーターとして3万円払いましたが、僕の感覚だと、支援はしているんだけど、僕らに対して何があったんだろうという感じがします。それはこれまで見てきた都市型芸術祭の難しさを意識することでもあります。

いま能登半島が壊滅的な状況になっていますが、昨年11月頃には、奥能登国際芸術祭が開かれていました。過疎地に大きなアーティストがやってきて、市民や色々な人と協同があり作品を作る、ある種の北川フラムさんのような世界観です。それが地震で壊滅的な状況になって、全国のファンから寄付をしようという機運があります。しかし、千葉市で例えばクラウドファンディングをしても、誰が支払うのだろうかと感じます。コマンドAに事業を委託しすぎるのではなく、事務局からもしっかり発言して、市民サポーターをどう作っていくか、ということも含めて考えていかないといけません。

さいたま国際芸術祭には行きましたか。千葉県の房総でも芸術祭をやっていましたが、千葉市で芸術祭をやるなら、都市型芸術祭になるので、最低でも、目[mè]がディレクションしたさいたま国際芸術祭を検証して、どういうインパクトがあり、どこがうまくいったか、どこがうまくいかなかったか、市がちゃんと効果を見てやっていかないと、3番煎じ、4番煎じなので危ういと思います。

さきほど事務局から気合いの入りの話がありましたが、全然気合いが入っていないと思います。政令指定都市で、川崎市のサマーフェスタでは、安い金額でコンサートが聴けて、おじいちゃんやおばあちゃんが素晴らしいと言っているようなものが、なんで千葉市ではできないのか。ずっと千葉市が東京に近いことを言い訳にして、何もやってこなかったからということを感じてほしい気がします。千葉市が、何ができるか考えてほしいです。

堺生活文化スポーツ部長

率直に厳しい意見をいただきありがとうございます。

気合いと申し上げましたが、芸術祭だけをやれば良いというものではないとも認識しています。それぞれの事業をしっかりと見てやっていきたいと思っておりますし、芸術祭でご指摘いただいた、委託事業者任せにしない、これも当然のことであると考えております。

委託事業者とコミュニケーションを密にしながら、当然、事務局としての課題認識を伝えていきますし、これからもしっかりと行っていきたいと思えます。3番煎じ、4番煎じというご指摘もいただきましたが、事務局自身もそうなるのはいけない、そうならないために何をすべきか模索しながら、そういった意識を持ちながら進めているところです。

我々の力及ばずというところもありますが、今いただいたご指摘を十分に踏まえて、これから取り組んでまいりますので、引き続きご指導いただければと思います。

神野委員長

これは結構深刻な問題だと思っています。そもそも、総合ディレクターを選任する委員の中に、千葉市出身者が誰もいないということもあります。私の研究室には、全国の美術館を始め、芸術祭のチラシが捌ききれないほどありますが、千葉国際芸術祭の情報は1回も来たことがないというのが実態です。

報告ア『第2次・第3次千葉市文化芸術振興計画 年次報告書（令和5年度実施状況、令和6年度実施予定）』は終わりにして、報告イ『千葉市芸術文化振興事業補助金（令和5年度実施報告）』に移りたいと思います。

イ 千葉市芸術文化振興事業補助金（令和5年度実施報告）

《千葉市芸術文化振興事業補助金について、事務局から、資料2を用いて説明を行った。》

《以下、意見交換》

椎原委員

審査をしている身からしますと、伝統芸能に関するものが、来場者数が落ちてしまったという印象を受けますが、音楽協会の2つの公演とシティオペラは例年通りであり、アートタウンおゆみ野は地に足がついた印象を受けます。

オペラ好きだからというわけではないですが、千葉市に関しては、オペラのニーズというのがあるのであれば、市民オペラはそれなりに力をもっていますので大事にしていくと良いと思います。市民オペラは色々なところがありますが、千葉市の市民オペラは稀有で、ある意味で高齢者に特化しています。

一方で、朝霞市や藤沢市など、芸術的な質をかなり追及する市民オペラもあり、そういうものと違うところでやっている点で、千葉市は稀有です。千葉市にはそういうものがないからできないのか、あるかもしれないけれど表面化していないのかもしれない、そんな印象です。

神野委員長

それぞれ視察をしていただいたということですが、各事業それなりのニーズがあり活性化が図られていますが、さらに別の方向性もあつたら良いのにとのご意見かと思えます。

瀬崎委員

千葉県は、全国でオーケストラをやっている人数が1番多いと言われていて、アマチュアの方も多いのですが、令和5年度芸術文化振興事業補助金については、オペラがたくさん採択されています。例えば、幕張総合高等学校はドラマで使われるなど、模範になる学校もあるのに、あま

り市民の意識が盛り上がってなくて、隔離されている感じです。

千葉市でも、もっと宣伝しても良いんじゃないかと思えますし、すごくもったいないと思えます。どうにか救える方法を考えて、課題はあるのかもしれませんが、みんなが盛り上がる起爆剤になるものは、みんなでサポートしていく感じを千葉市からいただけると嬉しいです。

椎原委員

もともとは公募でやっているのでもうこういうことになっていて、制度設計がおかしいという話も何年もやってきていますが、同じ事業しか出てこないし、同じ事業にずっと支援を続けていくのか、というところもあります。瀬崎委員が仰ることができるように調整をするとか、そういう方向性を視野にいれないと、ずっとこの状況が続きます。申請書の書き方もルーティン化しますから、審査をする委員も、今年もまたこれですね、という審査になり、忸怩たる想いをしています。やめて別の制度を作った方が良いんじゃないでしょうか。制度としては、行き詰まっている感じがします。

神野委員長

芸術文化振興事業補助金額全体を足しても、芸術祭の総合ディレクターの選任よりも金額が低いという矛盾も抱えています。補助金の制度がすごく充実していて、他市から羨ましがられるような状況であれば、制度が代り映えしなくても良いかと思えますが、実態としては応募してくれる団体が少なく、こういう中で選ばざるを得ない、という状況が続いているので立ち行かないのだと思います。

第3次文化芸術振興計画の重点取組にもある専門的な組織、一般的にはアーツカウンシルと呼ばれる組織が、裾野を広げるために、補助金の給付にプラスアルファで伴走支援もして、活動を伸ばしていくようなことが、今後は求められる気がしています。

委員からのご意見は、千葉市の文化芸術振興をめぐる大きな課題として、ずっと引き継がれてきたものなので、計画が変わるタイミングでもありますし、前例に縛られず目的を達成するためには何が必要か議論していけたら良いと思います。

関委員

美浜文化ホールで開催したオペラは、頑張っていると思いますが、来場者数がとても少ないです。一般的に市民参加型の事業は、お客さんを集めるのに一番楽な方法で、だいたい来場者数は増えるのですが、同じメンバーで、同じことをやっていると、来場者数は減っていきます。おそらく、今やっていることは同じようなメンバーで、同じような演目をやっているのでも、最初500人だった来場者数が、400人、300人、200人とだんだん減っているということになっている気がします。市民参加型でありながら、毎回新しい刺激があり、あそこに行ったらおもしろい、という感覚がないとだめです。前年と違うというところが少しはないといけなくて、同じような感じで続いているものはどんどん尻すぼみしていきます。このまま千葉国際芸術祭が開催すると、普通にしぼんでいってしまいそうな感じがして怖いと思います。

堺生活文化スポーツ部長

ご意見ありがとうございます。

まず、委員長からお話がありましたとおり、今年度、専門的組織いわゆるアーツカウンシルの在り方について、議論いただきたいと思っております。組織をつくるだけではなく、どういうニーズがあるか、伴走支援の方法などを含めて、どういうことができるか議論して作り上げていきたいと思っておりますので、段階を踏んで時間がかかる話ではありますが、しっかり取り組んでいきたいと思っております。その中で、既存の取り組みに対する支援も、ある意味組み換えるなど、新

しいものを追加する動きをしていかなければいけないだろうと思っています。

また、瀬崎委員からお話があった、クラシックを学んでいる学生さんについてですが、実は私の息子は室内楽部でコンマスをしておりますが、学外への発表機会はほとんどなくて、学内のサイクルで動いているところがあります。吹奏楽部など、部活動により色々と違うのかと思っておりますが、どういう風にすると、学生さんも出たくなって、イベントとしても成功するか、そのバランスも見ないといけないと思っています。

これまで私が経験してきた仕事では、市のイベントに学校さんに出ていただけませんか、というオファーをしても、日程が合わないため断られるということが繰り返されていましたが、逆の目から見ると、もしかすると新たな接点が見えるかもしれないと、ご意見を伺っていて感じました。

瀬崎委員

千葉の高校が、全国の高校が集まる年末のオーケストラフェスタのトリを務めていらっしゃるのと、岡山でオーケストラをやっている方から聞きました。

すごく小さい子か高齢者ばかりで、高校生、大学生、社会人という一番人数が多く活気づいている人たちに音楽が行き届いていないです。千葉市で、音楽を続けている人が集えるイベントを企画したらどうでしょうか。それこそ芸術祭では、色々なイベントに、活気づいた団体が参加できるように結び付けてもらえると良いです。

神野委員長

助成支援も含めて戦略的に行うべきだということだと思います。瀬崎委員から、中学生、高校生が一番音楽に触れる機会が少ないという話がありましたが、美術館に一番来ないのも、中学生、高校生で、特に高校生は壊滅的です。千葉市美術館で高校生向けのワークショップをしたところ、誰も来なくて、大学生でもいいので誰かしら学生さん参加してくれませんか、とお願いされたこともあります。高校生の実態を分かった上で、募集をかけているのかなど、色々な課題があると思います。重点的に取り組むとすれば、リサーチをして、どういう枠組みであれば高校生が参加するか戦略的にやっていくということが必要です。

私が千葉市の文化芸術に関わった最初の頃は、文化連盟の各団体に一律に助成金を給付するという時代でした。それをなくしていくことから始まり、次は広くということで公募をしましたが、それが育たなかったのがこの10年間です。

これからは、社会の中で必要とされていること、あるいは実際に魅力はあるけれどもつながっていないものをつないでいく、そういうことを全面的にやっていくことが求められているのだと思います。

皆様から、色々なご意見をいただき、これまでの文化芸術振興会議でも色々な意見が出ていましたので、よりよくしていく機会になればと思いますので、よろしくお願いします。

(3) (議題2) 千葉市文化芸術振興会議 令和6年度年間スケジュール

《千葉市文化芸術振興会議令和6年度年間スケジュールについて、事務局から、資料3-1から資料3-2を用いて説明を行った。》

《以下、意見交換》

神野委員長

今年度は、第3次文化芸術振興計画の評価手法を大きなテーマとして文化芸術振興会議の中で審議していきます。もう一つは専門的組織の構想について、千の葉の芸術祭の実施の中でも議論されてきた部分ではありますが、いわゆるアーツカウンシルを構築する必要があるのではないか、という議論がありますので検討していきます。

そして芸術文化振興事業補助金がありますが、この補助金の公募はいつ始まりますか。

川口文化振興課長補佐

例年は9月から始めています。

神野委員長

このままでいくと、そのまま公募が始まって、応募があったものの中から12月に選定するということになってしまいます。補助金の性格上、大幅な変更はできないまでも、議論があった内容を踏まえて、変えられる部分はそれまでに変えるなど、検討したほうが良いと思います。抜本的なところは、次の補助金の在り方を検討しないといけないところだとは思いますが。

椎原委員

団体がすごく高齢化していることが分かり、コロナ禍で高齢化したものが全部とは言わないが、およそ消えてしまいました。

若い人にどのようにシフトしていくか、応募資格についても、規約がないといけない等ではなく、もっと自由に応募できるとか、個人部門とかそういうものがない限り変わりようがないです。

神野委員長

おもしろいことをやりたいと思ったときに、声をかけても任意団体が応募しにくいという状況があります。旬な文化芸術事業は、大きな魅力の一つでもあるので、そこは検討する余地があると思います。

市として、公金を使って助成するという事なので、団体の設置基準や、団体の母体が明確であることを求めたい気持ちもわかりますが、それは昔ながらの団体が何十年も続いているということの延長で考えているからです。連盟への加盟などを都度やってられないということもあるかと思っています。

湯本委員

補助金の要綱に沿って交付されているということですが、納税者の立場からすると、税金が何に使われているか、自分にどう還元されるのか、公共の利益の何になるかが気にかかることです。補助金をどんどん出してしまうと、変な団体もいるものなので、団体がちゃんとしているかどうか、規約を守っていて、誰が会員であるか等の審査をどうするかが重要だと思います。

文化芸術は自由で創造的ではありますが、税金を使うとなるとどうしても固い部分がでてしまいます。事業をやりたいという人と補助金を出す側の擦り合わせが必要です。ただ、同じ団体が

続いていると代り映えしないので、それは検討事項になると思います。

神野委員長

どのように信用を担保するかということは、難しい問題ですが、行政の新しい課題だと思えます。安定した団体に、安心して公金を使うということも必要かもしれないですが、新しい挑戦は生まれにくいです。それでは、どうやって税金を使う公益性をまっとうしながら、新しいものを取り扱う機会を市民に提供できるのか、現場で新しい表現を発信していくという人たちをどうやってサポートしていくか、模索していくということが重要です。

吉野文化振興課長

色々のご意見をいただき、補助金の仕組みの資格要件、対象者要件など、議論・検討すべきところはあるかと思えます。時間があまりない中ではありますので、大きな改正は難しいと思えますが、できそうな改正があればそれを反映して令和7年度実施できればと思えます。検討しながらご相談させていただき進めたいと思えますので、よろしくお願ひします。

椎原委員

補助金ですが、いわゆるグラントみたいな形でできないかなと思えます。育成ということからすると、応募者の中から、優秀者にはグラントを与えて、ギャラリーなどで発表の機会や印刷費を与えるなど、そういうことまで色々と考えようはあるかと思えます。

造形芸術は、すごくハードルが高くてなかなかできません。千葉市の文化芸術事業の助成というと、舞台中心になってしまうので、造形芸術に補助金を与えて、作品の制作資金を提供するものの方が、実は育成にもなると思えます。直近の9月には無理かと思えますが、そのあたりの変更を考えたら良いんじゃないかと思えます。

瀬崎委員

例えば、年齢制限を設ける、分野ごとに採択件数を設ける、また分野によって準備期間も違うので日程の期間を変えるなど、公演したい企画がある中で、カテゴリーごとに申し込みやすく、自然と千葉市で挑戦しよう、となる方法を模索できないでしょうか。

関委員

千葉市にそういう人材がいるのかどうかという問題はあると思いますが、スタートアップ事業みたいな感じで、芸術学部出身などの若者が、劇団をスタートアップするときに助成をするような方法もあると思えます。それは、若者にとってはとてもありがたいことで、最初からスタッフを雇ったり、劇場を借りたりするのはすごく大変なので、そういうような助成が千葉市にあれば良い、とは思えます。千葉市の若者でそういうことを目指す方がいるかどうかは疑問のところもあり、難しいとは思いつつですが。

高齢者にとって、これまでの流れのものがなくなると、既得権益ではないですが困る人もいると思うので、それはそれで良いんですが、新しいものが入る隙がまったくないということは問題だと思えます。

柳澤委員

画家仲間がたくさんいますが、個展をやりたいけどお金がない、WEB上でもいいから個展ができれば良い、という意見がたくさんあります。WEB上で個展ができたり、市民ギャラリーいなげを使わせてもらったり、個展をサポートするような事業があれば良いと思ひました。

神野委員長

委員の皆様から色々ご意見をいただきまして、補助金については専門的組織が担う機能としても議論できると思います。今の文化振興課のスタッフのマンパワーも含めて、なかなか踏み込めない部分もあったかと思いますが、本来やるべきことであり、それをどうやっていくか、という議論の中で補助金の組み換えの議論も出てくると思います。その補助金の仕組みについて、これまでは応募があり、審査して、報告書が提出されて、問題ないですね、で終わっていたけれど、これからは、アーツカウンシルのスタッフが内部評価や伴走支援をして、アドバイスするようなことも、東京都は既にやっているののでできると思います。

もう一つは、芸術祭を3年に1度やっていく覚悟があり、毎回ディレクターが変わっていくとすると、その間の2年間はどのようにするのかですが、千葉市の理念が反映された補助事業・公募事業みたいなことが芸術祭にも波及していくような補助金の在り方もあると思います。そして、補助事業の成果発表が芸術祭に組み込まれてもおかしくないと思います。例えば、千葉市が重要視していることを、次のディレクターが解釈して、審査も変わると、変化も現れるし、芸術祭と通常の文化芸術事業を相互連関するようなことを設計した方が良いと思います。

この芸術文化振興事業補助金に関しては、事務局で考えていただいて、2回目か場合によってはオンラインになるかもしれませんが、工夫していただいて、事務局から今年度の変更点を投げたいと思います。

(4) (議題3) 第3次千葉市文化芸術振興計画の評価手法

《第3次千葉市文化芸術振興計画の評価手法について、事務局から、資料4-1から資料4-6を用いて説明を行った。》

《以下、意見交換》

神野委員長

第3次文化芸術振興計画の中では参考値を設定しています。以前に私が受けた説明では、文化芸術は定性的な評価が一番重要であるものの、事業を客観的にみる数値も必要である。ただし数字が独り歩きしてしまうのも問題なので、参考値という言い方にします、という説明を受けた記憶があります。

今の評価手法の説明は、定量的なものが全面的に出ている印象があるかもしれませんが、その事業を基本的にしっかりやれているかを見るので定量的な指標を使います。その後、評価シートやアンケート調査を通して、定性的な評価を行いつつ、課題と評価すべき点をきちんと整理して、最終的な評価へとつなげていく、という理解かと思います。

さきほどのスケジュールにもありましたとおり、今日は皆様からご意見をいただいて、それらの議論をまとめた上で、次回に事務局から素案を提示して、改めてご審議をいただきたい、ということですので。それでは、ご質問やご意見を伺いたいと思います。

椎原委員

今回、スライドがあってわかりやすかったです。初めてだと思いますが、なんでやってこなかったんでしょう。評価シートも紙ではなくて、WEBでやるなどICT化して、スピーディに評価をする方向性は当然やると思います。本日も紙資料を用意してくれましたが、もしかしたらペーパーレス化も視野に入れてもいいかもしれないです。困る人もいるかもしれないので、その辺りは考えることになるかと思います。

評価指標に関しては、今の段階ではあまり言えないですが、ざっと見た感じでは概ね良好としかいいようがなく、頑張ってくださいとしかいいようがないです。ペーパーレス化も叫ばれているところでもありますので、それも含めて考えていただければと思います。

神野委員長

紙の資料を用意いただいてありがたいですが、それも電子化しても十分に対応できる時代になっていると思います。評価の手法についても、基本形はとりあえず概ね良好ではないか、というご意見をいただいております。

柳澤委員

ペーパーレス化については、私はタブレット端末がないので困るところです。

市民意識調査については、初めて実施するのでしょうか。

吉野文化振興課長

市民意識調査は計画の改定時にはやっていましたが、中間評価まで含めた評価の仕組みの中で市民意識調査を実施するのは初めてです。

神野委員長

マンパワーからすると中核事業を選定して、その事業を踏み込んで評価するということはあると思います。理想としては、文化振興課が所管する事業は、文化芸術振興計画に最も基づいた事

業になると思うので、本来は全部見るべきだと思いますが、とりあえず中核事業を選定してスタートするという事は理解できると思います。

事務局との意見交換でお伝えしたのが、アンケートの手法に関して、これまでは文化振興課の方がすごく苦勞して質問項目を考えて、それに対して文化芸術振興会議で色々と意見が言われるということが多かったです。どちらかという、アンケートの質問項目を設定する時点から専門家を入れて、クロス集計など、より複雑な解釈が可能になるような設計を検討していただければという話もしたところです。

とりあえず事務局も色々と情報を集めて、これまでの課題を基に叩き台をつくったところだと思います。まだグレーゾーンの部分もあるかと思いますが、その点は精度を上げたら別の提案があるかもしれません。次の文化芸術振興会議までに素案の準備をお願いします。

中核事業の選定案についてはいかがでしょうか。相談されていて言うのもなんですが、施策9『文化施設以外の場所の活用』で、『いなげ八景ツアー&ランチ』が良いのかどうか、というのは私も疑問でして、この事業自体はこれまでやらなかったことをやっていて、市民ギャラリーいなげとしても非常に頑張っていると思うのですが、中核事業として当てはまるのかな、と思うところです。千葉市は歴史的な建造物は少ないですが、そういう場所を文化芸術に活用する、そういうことを積極的にやるということだと思います。本当は、芸術祭に求められていることでもあると思うなど疑問が残った部分です。引き続き検討していただければと思います。

関委員

専門的な組織、いわゆるアーツカウンシルがいつできて、どういう感じになるのか見えなかったです。アーツカウンシルがどうなっていくかで、中核事業の選定案も変わってくる気がしますので、この場で中核事業を議論するのはどうかと思うところもあります。

神野委員長

それに関しては、とりあえず今までの評価の延長線上で精度を上げていく取り組みだと考えていただいて、アーツカウンシルができたときには評価の在り方も変わってくると思います。文化芸術振興会議とアーツカウンシルの関係性も出てきますし、今はアーツカウンシルがないため、文化芸術振興会議がやらないといけないことも膨大にあります。アーツカウンシルも定義が明確にあるわけではないので、千葉市に必要なアーツカウンシルの機能として、既存の文化施設をより良くするとか、文化芸術事業の評価とか、文化芸術を育てていくのはどういう形が良いのかを議論していきます。それができていく中で、おそらく評価の手法についても変わってくるという理解でいかがでしょうか。

吉野文化振興課長

ありがとうございます。専門的な組織について、思っているところはありますが、今はまだ議論できる場所ではありませんので、ステップを踏ませていただいて、後々はそういった議論になりますのでよろしくお願いします。

神野委員長

文化芸術振興会議は、実は結構色々なことがあります。色々な想いをを持った人たちが集まっているのが文化芸術なので、それに対して、統一的な一つのことだけやれば、すべてがうまくいくということもなく、こちらをうまくやるとあちらがうまくいかない、ということもあるかと思えます。

千葉市としては、古い器に色々なものを盛ろうとしていたというところがあり、芸術祭の話もさきほどありましたが、文化芸術振興会議が議論していたものとは全然違う予算規模でやってい

て、文化芸術振興会議には情報が来ないという矛盾した状況があります。それをだんだん調整していき、アーツカウンシル、文化芸術振興会議、文化施設、芸術祭等があるという千葉市のビジョンが見えてくる形にできたら良いな、という本日はその記念すべき1日目という感じです。議事は以上になります。

《閉会》

問い合わせ先
千葉市市民局生活文化スポーツ部文化振興課
TEL 043(245)5961
メール bunka.CIL@city.chiba.lg.jp